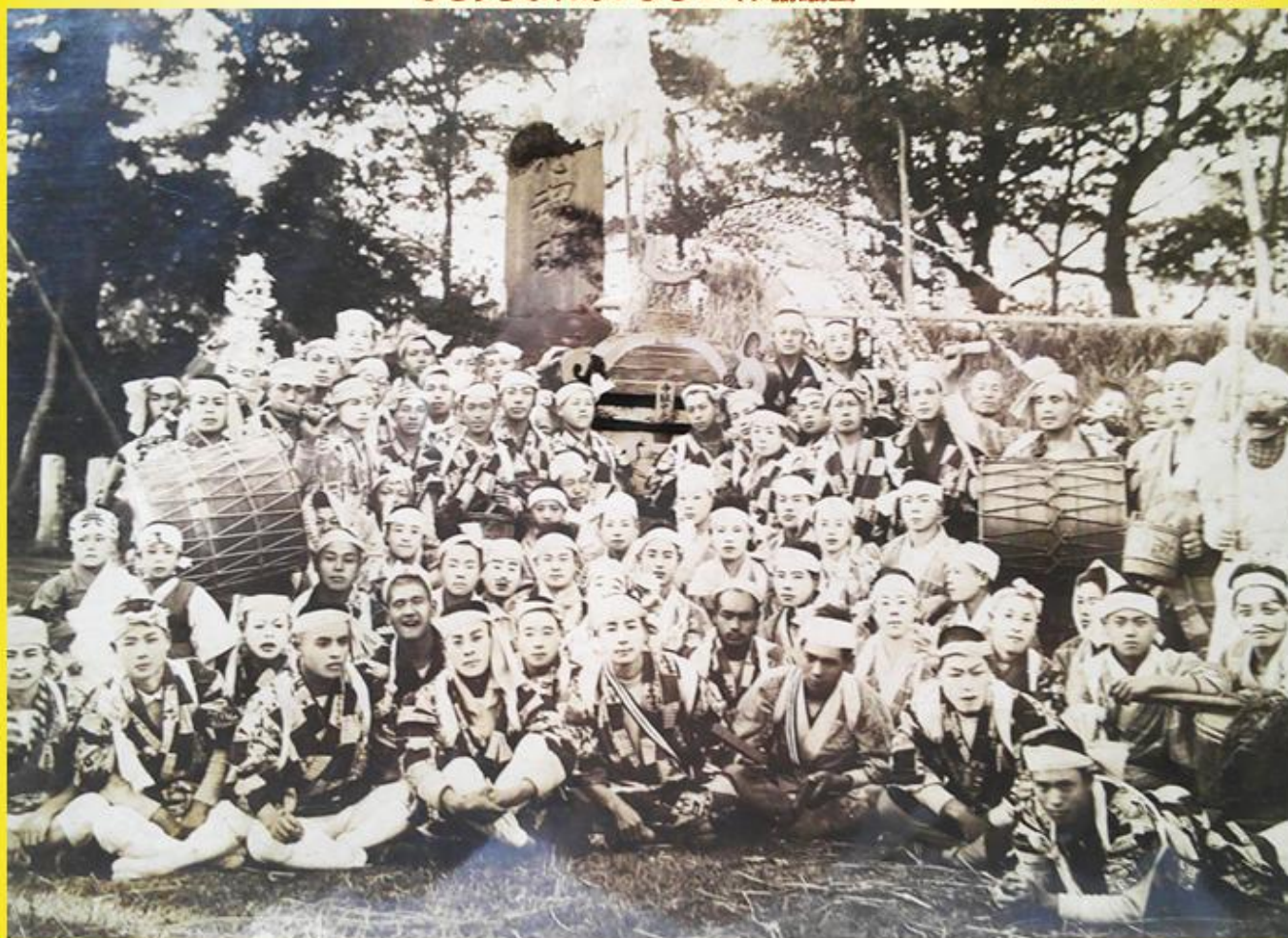


しもうち

山王山(さんのうやま) 157m

しもうちふれあいまちづくり協議会

令和7年10月28日発行



1940(昭和15)年 御輿野(おこしや 今宮白山神社 斎場・お旅所)忠魂碑前にて
紀元2600年奉祝の神輿と中組の青年たち 【横山 徹氏 提供】

P2 終戦80周年

P3 しもうちふれあいまつり

P4 鉄道沿線草刈、親子クッキング

P5 関市長要望提出、赤谷池生態調査

P6 下有知小学校租税教室

P7 団体活動の紹介、

P8 まちづくりワークショップ

中組で神輿が練り歩いたのは、紀元2600年の奉祝と戦後の憲法発布の時だそうです。右奥に稲の架かった「はさ」が見え、左端に「典」という鉢巻をした若者がいるので、晩秋の式典に関する写真と考えられます。(松田幸彦氏に取材)

詳細は下有知ホームページの「しもうちふれあいまちづくり協議会」で閲覧できます。スマートフォンは右のQRコードでご覧いただけます。



本年、終戦80周年を迎えるにあたり、関市遺族連合会では、この節目に「鎮魂、ご英霊に不戦を誓うこと、そして、恒久平和、終戦八十周年」としたのぼり旗を、各所の慰霊碑に設置することにしました。

下有知にも、ふれあいセンターの西、シルバー人材センター前の忠魂碑の両脇に写真のように設置したところです。

これは、現在、戦後生まれの方が9割を超え大戦の記憶が次第に薄れつつある中、終戦80周年を期に、二度とあのような悲惨な戦争が繰り返されないよう、平和の尊さを伝えていく事を目的としたものです。

この大戦の戦死者は230万人にも及び、この下有知でも98人と多くの方がなくなりました。この若者の多くは子供も残さず、家族を思いながら何も言わずに国のため戦地へ向かい、自らの命を捧げたのです。それは国を守る国是によったものでした。このことは国民として畏敬の念と感謝を新たにするところです。

そして、多くの戦友を失うとともに地獄の戦場をくぐり抜け生き残ったこの世代は、戦争の無念を胸に戦後をがむしゃらに働き、復興の中核を担って今の豊かさを創り上げてきたのです。

ここで、戦没者の追悼、慰霊の行事等を見てみますと、8月1日には関市遺族連合会の慰霊祭、15日には総理大臣主催による全国の戦没者追悼式が武道館で行われています。また、岐阜県知事主催の追悼式が岐阜で、沖縄で、次いで関市長主催の追悼式行われています。このように、追悼式は国、県、市等で開催され、血縁に戦没者を持つ遺族会が中心となって、第4四半期に市内19地区で慰霊全国戦没者追悼式祭が行われています。また、この間には招魂社である靖国神社の参拝や岐阜長良川河畔の護国神社の大祭も行われています。

時の経過とともに遺族会関係者も少なくなっております。今は平和で不自由のない豊かな社会にあって、終戦を意識することが少なくなっているようですが、「終戦80周年」は遺族会だけのことでなく忘れてはならないこととして、次世代へ繋いでいく節目とした取り組みです。

今、世界では戦争や紛争が絶えず、決して平和ではありません。終戦80周年を期とした「のぼり旗」が恒久平和を願い戦争の記憶を繋いでいく事となることと願っているところです。

掲載記事、写真を募集 ～地域の情報・宝物を皆さんにお伝えしています～

今回の表紙や平田氏の寄稿のように、皆さんの地区や団体で実施している活動内容、地域の魅力や宝物、伝統・文化・トピックスなどの様々な記事や下有知を語る写真などを、お寄せください。

【問い合わせ先】しもうちふれあいまちづくり協議会(詳細は最終ページをご確認ください)



♪ 下有知 ふれあいまつり ♪ まちづくり協議会事業（8/2文化・交流部会）

令和7年8月2日（土）に、第19回下有知ふれあいまつりを開催しました。連日暑い日が続いており、当日も37度を超える猛暑日となりました。午後3時より獅子舞の悪魔祓いが笛や太鼓の軽妙なお囃子により執り行われ、まつりが始まりました。屋外では各種飲み物・プリン・パン・フランクフルト等の販売や、メダカすくい・消防車の展示・消防服の試着等が行われました。屋内では下有知保育園の園児たちによるキッズダンス、ゆきこま会のモダンバレエ、下有知中学校と関有知高校の吹奏楽部の演奏、関有知高校ダンス部のダンスが披露され、来館者から多くの声援を受けておりました。最後にビンゴ大会が開催され、多くの子どもたちが参加し、数字が揃うと大きな歓声が上がり、会場中に笑顔が弾けていました。



大変暑い中を多くの区民の皆様にご来場いただき、盛況に終わりました。本当にありがとうございました。来年も開催を予定しております。よろしくお願いいたします。

長良川鉄道沿線草刈り

まちづくり協議会事業

(生活・環境部会)

6月22日(日)、10月5日(日)に、しもうちふれあいまちづくり協議会、下有知1区・3区・4区・5区・6区、長良川鉄道等の関係者で、長良川鉄道沿線の下有知地域内を草刈りしました。地域と共に歩む長良川鉄道を支援するもので、草刈りは春と秋の年2回行っています。沿線の美化と見通し確保により、側道が安心して通行できるようになりました。また、踏切での事故防止の一助になっています。参加していただいた皆さん、ご協力ありがとうございました。



親子クッキング

まちづくり協議会事業 (7/26 健康・スポーツ部会)

7月26日(土)に、健康・スポーツ部会主催で、親子クッキングが開催されました。

親子で調理を体験しながら、美味しく、楽しく料理を学べました。このクッキングをきっかけに、お子さんの食べ物への興味や関心も高まったと思います。親子で一緒に作った料理は、格別に美味しかったですよね。当日はお父さんも参加していただき、笑顔で楽しく調理ができました。

これからも美味しく、簡単にできるメニューを考えていきたいと思いますので、お家に帰ってからも、親子クッキングで習った料理を作ってみてください。来年も多数の参加者をお待ちしております。



関市長へ要望書提出 まちづくり協議会事業（9/2 総務・自治部会）

下有知地内における危険箇所や道路舗装などの改善について、例年より1ヶ月前倒しで各区内で5月から8月にかけて取りまとめた要望書を、9月2日（火）、池村市会議員にも同席いただいて、山田協議会会長から山下関市長および関係部長・課長へ提出しました。今年度は、新規と継続を合わせて38件を要望しました。要望に関連して、環境保全の意義や用水・排水路の水害対応などが話題になりました。特に、赤谷池やテクノハイランド周辺の自然環境については、市長より地域の方々に足を運んで親しんでもらえるようにしてほしいとご指摘いただきました。

地域課題については、個人でなく地域が一体となって対処するため、下有知各自治会・区で改善要望を、地域内で調整し地域全体の共通課題として市へ提出するものです。今後も、こうした要望活動により課題の改善が図られるよう継続的に働きかけていきます。また、日頃の生活に支障をきたすような問題や改善すべき点がありましたら、地域の自治会長・区長にご相談ください。



赤谷池生態調査

下有知地区紹介

（5区 環境保全）



ウシモツゴの確実な生息地は、美濃市及び関市内の特定のため池のみです。その絶滅危惧種ウシモツゴの生態調査が5区の環境保全事業の一環で9月13日（土）午前9時から赤谷池で行われました。NPO法人（ふるさと自然再生研究会）の塚原幸治さんを中心にそのメンバーと5区の役員より、練り餌を入れた網カゴの仕掛けを池の10箇所に分散投入しました。40分後に仕掛けを順次引き上げバケツに移した後に種別に分け、それぞれを数えました。ウシモツゴ当歳魚が26匹、スジエビ50匹、ヌマムツ15匹が獲れました。昨年度のウシモツゴ120匹に比べれば少ないのですが、ブルーギルやブラックバスの外来種は見当たらず、順調な生育を確認できました。投入と引き上げの合間に赤谷池と周辺の水系生物の多様性や天王池などの関市にあるため池の現状についてメンバーの方に教えていただきました。参加予定の中組子ども会は不安定な天気でしたので参加を見送りました。他地域から赤谷池を訪れ自然豊かな周辺を散策する人々を見かけます。木々が美しく彩る機会をみつけて、一度訪れてみてください。



7月3日に下有知小学校6年生を対象に、未来を担う子供たちを対象とした租税教室を、市内にある中濃法人会より講師を招いて、勉強会を行いました。下有知小学校では毎年行われる行事となっております。税金の種類にはどのようなものがあるかの質問に、「消費税」「たばこ税」「ガソリン税」「所得税」など生徒の皆さんから活発な意見が飛び出しました。税の種類を生徒の皆さんがたくさん知っていることに、講師の先生も驚かれました。その後、アニメーション仕立てDVD鑑賞を行い、税金がなくなってしまう架空世界では、日々の生活が成り立たないことになってしまうことを、生徒の皆さんが真剣な眼差しで鑑賞しておりました。ビデオの感想を聞かれると、「税金がなくなってしまうと、大変な世の中になってしまうのを見て、税金の大切さがわかりました」との意見がありました。アニメを通して税金が無い暮らしが税金がある暮らしとどう違うのか。生徒の皆さんに感想を聞きながら税金が暮らしに欠かせないものであるということを認識したようです。最後に学校の建設費が約10億円かかることを例に上げて、1億円の模擬紙幣を生徒の皆さんに一人ずつ実際に持ってもらい、学校を建設するのに、莫大な税金が使われることを実感したようでした。

青空に映えるコスモス畑

下有知地区紹介 (6区 環境保全)



上切公民センターの北側に6区環境保全事業の一環でコスモス畑が広がっています。ご覧ください。

木工作を楽しむ 団体活動の紹介

(7/26下有知小ふれあいクラブ)

今年度の「下有知小学校放課後ふれあいクラブ」に応募してくれた児童は13名と例年より少ない人数で発足しましたが、軽スポーツ・関有知高校生活デザイン科の皆さんとの交流を実施してきました。第三回は「木材片を利用して工作を楽しもう」題してふれあいセンター大会議室で高橋正次さんを講師に招いて行いました。

木工作の材料は、高橋さん達が山王山の登山道整備で伐採した枝や高橋さんの知り合いから入手された木材などを用いて、かなり前から入念に数多く準備していただきました。また、登山道整備仲間の鳥本哲夫さんにも応援に来ていただき、写真撮影などに協力いただきました。

特に、笛は技術的に手の込んだ工作が必要でしたので、音が鳴るようにして磨きあげてから提供していただきました。しかも、桜の木と榎の木の二種類も用意してもらいました。試しに音を出してみるときは、子どもらしく喜々として鳴らしていました。首にかけるための紐にベトナム製の部材や手芸用のビーズなどを通す作業については、低学年男子は、てこずっていました。澄んだ高い音が出るので、野外で活動するときに安全確認や合図に使えるそうです。

時間内に活動を終えるため、お孫さんと一緒に用意していただいた見本例とそれらの組み合わせるパーツの木片類などを見比べ、材料を手にとって選ぶことから始まりました。いろいろな大きさに裁断して磨いたり穴を開けたりして加工した木片や市販の手芸部品などを、ボンドで接着して見本からイメージした作品に上げる作業は順調に進み、次から次へと作品の材料を選んで工作することに、どの子も集中して取り組むことができました。

家でも今日の体験を活かして、作品づくりができるよう材料を持ち帰ることができるようにしていただきました。それらの作品を10月に開催された下有知の文化祭に出品させていただきました。



まちづくりワークショップ まちづくり協議会（8/24総務・自治部会）

8月24日に「せき・まちづくりNPOぶうめらん」の田原晃成さんをお願いして、協議会委員を対象にローカルダイアログの講習会を開催しました。ローカルダイアログとは、住みたいまち、暮らしたいまちの姿を考え、少人数のグループでカードを使って対話しながら具体的な構想を練っていくものです。対話しながらゲームをするように進めることができるので、子どもから大人まで多様な世代が対話に参加することができます。説明を聞きながら提示されたカードについて各自の立場を表明し、その理由を順に述べ合う中で、地域が置かれている現状や立場の違う方の考えを知ることによって、対話する互いが現状認識や考え方を見直すことを委員が実感できたようです。



このようなワークショップ形式の対話・意見交換の場を設け、各世代の抱く地域課題を明らかにし、それらの解決に結びつくアイデアを拾い出せるようにするため、11月9日（日）にふれあいセンターにて対話ゲーム「下有知のまちづくり」を開催します。広報にチラシを挟み込みましたので、興味のある方は、ぜひ参加してください。

忠魂碑の設置と移設 故天野一市氏『白山神社回顧録（1999.1刊行）』参照

戦前に天野泰助氏ら在郷軍人会の奉仕作業により、日清・日露の戦役の慰霊碑が御輿野斎場の地に建立された。（表紙の写真）戦後の混乱が収まり、その後の大戦の戦病死者も同じく合祀され、慰霊碑を村民の出入りのよい地に移祀して、祭祀も参拝もしやすくしたらという声上がり、幾度かの協議の後、御輿野にあった慰霊碑を白山神社山地から掘り出した石組み共々、現在地の旧下有知公民館に移祀されました。「おこしや」という場所を示す名称がわかる人は、地元の60代後半以上の方々だと思われます。移設されたことも含め、この機会に広報誌の場を借りて紹介しました。

詳細は下有知ホームページの「しもうちふれあいまちづくり協議会」で閲覧できます。スマートフォンは右のQRコードでご覧いただけます。



しもうちふれあいまちづくり協議会

〒501-3217 関市下有知 3245 番地 32(下有知ふれあいセンター内)

TEL0575-25-2020(FAX共通)

Eメール:shimo-f@ccn3.aitai.ne.jp

ホームページ:https://shimouchi.com